

令和7年度

北区学校ファミリー
事業報告書

東京都北区教育委員会

はじめに

北区教育委員会教育長 福田 晴一

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中一貫教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、北区小中一貫教育カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流や「学校ファミリーの日」の活動状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、令和6年3月に策定された『北区教育ビジョン2024』では、取組の方向の一つとして、「幼児期からの育ち・学びを支える」を掲げ、「就学前教育・保育の充実」、「学校ファミリーを基盤とした教育活動と小中一貫教育の推進」を図り、各サブファミリーによる特色ある取組を行っています。

小中一貫教育については、「都の北学園」（令和6年4月開校）において、教科担任制を進めるなど、特色ある取組みを図っております。この取組みの事例の効果を検証し、義務教育9年間の切れ目のない一貫した指導体制を共有し活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

今後も、北区教育委員会は、幼児期から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開し、「教育先進都市・北区」を進めてまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

目 次

I サブファミリー事業報告

| | |
|----------------------------------|----|
| 王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園 | 1 |
| 十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・十条小 | 3 |
| 明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小 | 5 |
| 堀船中・堀船小・滝野川第五小 | 7 |
| 稲付中・梅木小・西が丘小・うめのきなかよしこども園 | 9 |
| 赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小 | 11 |
| 桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小 | 13 |
| 浮間中・浮間小・西浮間小 | 15 |
| 田端中・滝野川第四小・田端小 | 17 |
| 滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小 | 19 |
| 飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小 | 21 |
| 都の北学園 | 23 |

II 参考資料

| | |
|---------------|----|
| 北区学校ファミリー構想概要 | 25 |
|---------------|----|

王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園）

1. 交流・連携の方向性

（1）研究主題

一人一人のよさや違いを認め合う授業づくり・学級づくり
－教育のユニバーサルデザインを通して－

（2）研究仮説

各教科・領域の特性に応じて、ユニバーサルデザインの視点から個々の子どものアセスメントを適切に行い、更に必要に応じて個別に合理的配慮の提供を行っていけば、全ての子どもの「学びやすさ」や「過ごしやすさ」を高めることができるであろう。

（3）目指す子どもの姿(王子桜中サブファミリー共通)

- 学校生活において安心感をもち、お互いを支え合うことができる子ども
- 学び合いを通して、学習のめあてを共有し学びを深めることができる子ども

（4）研究方法

ユニバーサルデザインの視点を生かして、①特別支援教育部会 ②ICT部会 ③道徳部会 ④幼小連携部会の4つの分科会構成により、校種を超えて授業実践の成果や課題を共有すると共に、子どもの発達段階に応じた授業づくりや学級づくりの在り方を探究した。さらに、（5）に掲げる取組の視点例を踏まえて、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりや学級づくりをサブファミリー全体で組織的に研究した。

（5）ユニバーサルデザインの視点例

- 安心感と支え合いのある集団づくり
- 肯定的な集団の雰囲気醸成
- 仲間との目的意識の共有
- 望ましい学習環境や言語環境の整備
- 教師の指示や説明の明確化、発問の工夫
- 情報伝達の工夫と大事な情報の見える化、集中力を高める動作化の工夫
- 子どもの認知特性に応じた複線化や学習調整の工夫
- 単元全体を見通した授業デザインの工夫（学習の見通しと振り返り）等

2. 具体的な活動

（1）調整や話し合い・サブファミリー全体での活動

| 実施日 | 会場校 | 取り組み | 主な活動内容 |
|--------------|--------|------------------|--|
| 4月23日 (水) | 王子桜中学校 | ファミリー研修会 | 今年度の研究方針の確認と各分科会での研究協議等 |
| 5月22日 (木) | 王子小学校 | ファミリー研修会 | 6/11研究授業の指導案検討・情報交換等 オンライン会議（東十条小がホスト校） |
| 6月11日 (水) | 東十条小学校 | 第1回 学校ファミリーの日 | 東十条小学校教員による研究授業及び研究協議等 |
| 8月29日 (金) | 王子小学校 | ファミリー研修会 | 9/17研究授業の指導案検討・情報交換等 (対面式で実施) |

| | | | |
|---------------|---------------------|------------------|--|
| 9月17日 (水) | 王子小学校 | 第2回 学校ファミリーの日 | 王子小学校教員による研究授業および研究協議等 |
| 12月17日 (水) | 各校園 | ファミリー研修会 | 1/28研究授業の指導案検討・情報交換等 オンライン会議（王子桜中がホスト校） |
| 1月28日 (水) | 王子桜中学校・ さくらだこども園 | 第3回 学校ファミリーの日 | 王子桜中学校及びさくらだこども園の教員による研究授業および研究協議等 |

(2) その他の交流活動

- ① 通年 登下校時のあいさつ活動（王子小・王子桜中）
- ② 通年 合同避難訓練（王子小・王子桜中）
- ③ 5月 合同引き取り訓練（王子小・東十条小・王子桜中）
- ④ 7月 王子桜中学校2年生による職場体験学習（王子小・東十条小・さくらだこども園）
- ⑤ 1月 小中連携学校図書館フェスティバル（王子小・王子桜中）

3. 成果と工夫した点

<成果>

- (1) 平素の各校園での子どもの姿や教員の指導の実態等を分科会協議をとおして共有できた。
- (2) ユニバーサルデザインを共通のテーマにすることで、発達段階の違いで効果的な指導方法の充実を図る方策を共有し、研究を深めることができた。その結果、幼小中一貫した指導の工夫および改善策を検討する意識を醸成できた。

<工夫した点>

- (1) 研究協議で検討した教材・教具などを授業で実践した。
- (2) 指導案検討の協議会を基本、オンラインで行ったことで、教職員の会場移動や資料準備の手間が省かれ、十分な話し合いができ、議論を深める検討会ができた。

4. 課題と改善の方向性

(1) 課題

- ① 児童・生徒の変容のとらえ方を実態に合わせて検討する必要がある。
- ② ICTの活用について、端末操作と対話の時間のバランスや、アナログ媒体との使い分けについて課題が残った。あわせてICT活用の基盤となる言語能力も高めていくことが必要であった。
- ③ 校種をこえて指導の一貫性を図るために、日々の実践を共有する時間が必要。
- ④ 生徒の実態にもう少しフォーカスして事前検討会で相談できるとよいのではないかな。
- ⑤ ユニバーサルデザイン（UD）の中でどこを中心に（何を課題に）しているか不明瞭になってしまうので、焦点化も必要である。

(2) 改善の方向性

- ① 小中の連携を一層意識した授業研究や情報交換が必要であることがみえてきた。次年度は小中連携に一層重視した研究が進められるような体制を構築したい。
- ② ICTの活用については、部会をこえてすべての部会でも研究を進めることが可能なので、広い視点で研究を進めていけるように工夫していく。
- ③ UDの研究を2年進めている中で、課題の焦点化が課題となっている。年度初めに全体で研究の中身を焦点化し、より効果的な活動を進めていく。

十条富士見中サブファミリー（十条富士見中・王子第二小

・王子第三小・王子第五小・十条小）

1. 交流・連携の方向性

- ・北区教育ビジョン2024の理念を踏まえ、十条富士見中サブファミリーの育てたい子ども像を「自ら考える子ども」、「心豊かな思いやりのある子ども」、「健康でたくましい子ども」とし、『知』、『徳』、『体』のバランスのとれた育成を目指す。
- ・十条富士見中サブファミリーにおける特色ある取り組みのコンセプトを「豊かな人間性の育成」とし、研究主題を「豊かな人間性を育む道德教育の充実」とする。
- ・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小・中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育の推進をする。
- ・児童・生徒の交流学习の実施や地域行事を活用した連携活動の推進をする。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合いの実施

- ・校園長連絡会（年度当初、年度末に計2回開催）
- ・運営委員会（副校長・教務主任等）
- ・養護教諭連絡会など必要に応じた教員連絡会

(2) サブファミリー全体での活動

- ・授業研究会（年間3回） 6月11日（水） 9月17日（水） 1月22日（木）
※1月22日（木）は北区教育委員会研究協力校研究発表と共催
- ・指導案検討会（年間3回） 5月22日（木） 9月2日（火）
- ・つまずき0プラン検討会 9月17日（水）
- ・アスレチック・チャレンジ練習会 9月 10月
- ・小学生の中学校体験入学 11月25日（火）
- ・図書POP作品交流事業 新中学1年情報交換会 1月 3月

(3) 「学校ファミリーの日」の授業研究会（年間3回）

小学校の学年を中心とした6つの分科会に分かれ、研究授業を実施した。

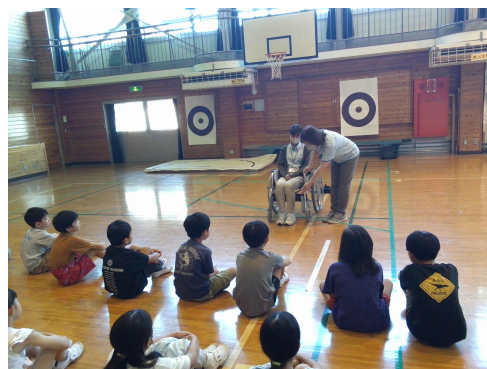
- ・第1回授業研究会 十条小学校

内容項目「友情・信頼」を中心に主として人との関わりに関することについて道德科の授業を実施した。板書の工夫のほか、児童が意見や考えを共有する際、きたコンや付箋を活用するなど発達段階に応じた方法の工夫が見られた。



・第2回授業研究会 王子第五小学校

第2回は、道徳科の授業以外にも学級活動や総合的な学習の時間において研究授業を実施した。第1学年では、学級活動において、よりよい人間関係の形成として「ふわふわ言葉とちくちく言葉」を実施した。第3学年では、総合的な学習の時間において、共生社会の実現をテーマに「障がい者」、「高齢者」の人権課題について学習した。



・第3回授業研究会 十条富士見中学校

第3回は、北区教育委員会研究協力校研究発表と共催の形式で実施した。「豊かな人権感覚を育み、自他の大切さを認める生徒の育成」をテーマに授業では、トリオ活動を中心に多様な意見を認め合う機会や雰囲気を作りながら、自己理や他者理解を深めることができた。参観者からもトリオによる話し合いの生徒の表情から授業改善の成果が見られるとの感想が寄せられた。



3. 成果と工夫した点

昨年度まで授業研究において、主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導の工夫として、「きたコン」の活用に取り組んだ。一定の成果を得られたことから、現在の児童・生徒の課題を考慮して、研究主題を「豊かな人間性を育む道徳教育の充実」に変更した。1年目の取り組みとして、道徳科だけではなく、学級活動や総合的な学習の時間での取り組みなど広い視点で協議を進めた。協議会での活発な意見交換につながった。授業では、児童・生徒の意見交換や事前のオンラインによる指導案検討など「きたコン」の活用として昨年度までの取り組みが定着している場面が多く見られた。

4. 課題と改善の方向性

特色ある取り組みのコンセプトを「ICTの活用」から「豊かな人間性の育成」に変更したことによって、協議の深まりという点においては、課題が残った。今後の改善の方向性としては、研究主題や研究内容等について焦点化を図り、より実践的な取り組みとしていくことが挙げられる。

明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

1. 交流・連携の方向性

【育てたい子ども像】

- ・分かる喜びを感じ、すすんで学ぼうとする意欲をもつ子ども
- ・じっくり考え、自分の考えを豊かに表現できる子ども
- ・相手を思いやり、人のためにすすんで行動しようとする子ども

【協議会のテーマ】「持続可能な社会づくりに向けた小中一貫教育の一層の推進」

- ・持続可能な社会の創り手の育成を見据えながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む
- ・各教科・特別支援学級の特性を生かした授業の在り方
（分かる、関心・意欲を高める、考える、言語活動、体験活動、課題発見・解決、きたコンの活用、少人数の効果を生かした授業等）

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- 運営委員会：校長による協議・検討（定例校園長会後等を活用）
- 拡大運営委員会：校長・副校長・主幹教諭等で実施運営の協議（MEETの活用）

| 日時 | 会場 | 事業名 | 内容 |
|-----------|--------|--------|----------------------------|
| 4月 3日(木) | MEET | 運営委員会① | ・新組織顔合わせ ・今年度の進め方の骨子確認等 |
| 5月 13日(火) | 滝野川分庁舎 | 運営委員会② | ・今年度の実施方策の決定 |
| 5月 21日(水) | MEET | 拡大委員会① | ・今年度の実施方策とSFの日①の運営について |
| 7月 17日(木) | MEET | 拡大委員会② | ・SFの日②の運営について |
| 10月 9日(木) | 滝野川分庁舎 | 運営委員会③ | ・SFの日②の反省 ・令和8年度の運営の方向性 |
| 12月 1日(月) | MEET | 拡大委員会③ | ・SFの日③の運営について |
| 1月 28日(水) | MEET | 運営委員会④ | ・SFの日③の反省 ・今後のSFの取組について |
| 2月 12日(木) | MEET | 運営委員会⑤ | ・今年度の反省（報告書の確認） |
| 3月 10日(火) | 滝野川分庁舎 | 運営委員会⑥ | ・次年度の実施計画案について |

(2) サブファミリー全体での活動

| 日時 | 会場 | 事業名 | 内容 |
|------------|---------------------|---------------------|---|
| 4月 19日(土) | 各学校 | 合同引渡訓練 | ・震度5弱以上の地震が発生したことを想定した5校合同の引き渡し訓練 |
| 6月 11日(水) | 明桜中学校 | SFの日① | ○明桜中生徒を対象とした公開授業 ・全体会（昨年度の学力調査等の実態と現状について） ・分科会（公開授業の協議、各教科等の重点課題の協議等） ・全体会（分科会報告、今後の取組について） |
| 8月 27日(水) | 王子第一小学校 としま若葉小学校 | 小中一貫推進委員会 指導案検討会 | ・つまずきゼロプランの協議等 ・SFの日②における指導案検討 |
| 9月 17日(水) | 王子第一小学校 としま若葉小学校 | SFの日② | ○2小学校児童を対象とした公開授業（小中教員がTT等で指導に加わる） ・分科会（公開授業の協議、重点課題の協議等） ・全体会（分科会報告等） |
| 10月 20日(月) | 明桜中学校 | アスレチック・ チャレンジ | ・4小学校6年全児童参加による陸上記録会 ・明桜中陸上部生徒による運営補助 |
| 12月 23日(火) | 明桜中学校 | 小中一貫推進委員会 指導案検討会 | ・つまずきゼロプランの進捗確認等 ・SFの日③における指導案検討 |

| | | | |
|----------|-------------------------|--------------------------|--|
| 1月28日(水) | 明桜中学校 (分科会) 各小学校等 | S Fの日③ | ○4小学校6年児童を対象とした公開授業 (小中教員がT T等で指導に加わる) ・分科会(公開授業の協議、重点課題の協議) ・全体会(分科会報告、担当指導主事より今年度の取組の指導・助言) |
| 2月18日(水) | 各小学校 | 中学校生活への 期待や希望を 語る会 | ・明桜中3年生を小学校への派遣し、中学校生活への期待や希望を小6児童に伝える(生徒会本部役員による動画紹介含む) |

3. 成果と工夫した点

- (1) サブファミリーでの取組や実施状況の進捗確認を行う運営委員会は、全校長が一堂に介す定例校庭長会後を活用した。また、当日の実施運営については、副校長や主幹教諭等を交えた拡大運営委員会をMEETで3回開催した。このことにより、各校担当者が集まる時間の効率化を図ることができた。
- (2) 毎年4月に実施する「北区基礎・基本の定着度調査」の昨年度の結果を、各学年・各教科・設問別・学校別のグラフにまとめ、第1回SFの日に提示し、各分科会におけるサブファミリーとしての課題について結果を基に分析し、その課題解決にせまる指導内容の検討を行った。第2回及び第3回SFの日の実施に当たっては、指導案検討会を設定し、協議を深め授業を行った。
- (3) 第2回SFの日は、王一小・とし若小児童を対象とし、主の授業者は小学校教員とするものの分科会内の他校教員がTTで参加し協働した授業を行った。分科会後の全体会はMEETで実施した。
- (4) 第3回SFの日は、4小学校6年児童を対象とし、主の授業者は分科会によっては中学校教員が担当した。また、分科会内の他校教員がTTで参加したり、他校の児童同士で振り返りを行ったりして、教員(児童)が協働し合う授業を展開した。授業後には、中学校進学に向けた学習面への不安解消や他小学校からの友達との交流に期待をする等の感想があり、児童の声も概ね良好だった。
- (5) 昨年度に引き続きアスレチック・チャレンジ(陸上記録会)を、4小学校6年児童が明桜中校庭に一同に集まり開催した。実施に当たっては、5校の教員間で事前協議を行うとともに、明桜中陸上部生徒が競技会の運営補助を行った。参加した児童からは、中学生の働きに対して憧れを抱く声が聞かれ、半年後の中学校進学への意識付けにつながった。



4. 課題と改善の方向性

- (1) 今年度進めてきた学力調査の結果を踏まえサブファミリーの子ども達の課題を分科会で協議しその課題解決に向けた授業を進めるための指導案検討会及び4校の合同でのアスレチック・チャレンジは次年度以降も踏襲して実施する。
- (2) 小学6年生を中学校に招いての陸上記録会や授業の実施は、児童の中1ギャップの解消や小中の教員が協働への取組に大きな成果がある。小学校から中学校への移動に課題があるものの、次期学習指導要領改訂の方向性を視野に入れながら、ファミリー内の子ども達の育成に必要な取組を確実に進められるよう、引き続き工夫・改善及び教員の意識改革を図っていきたい。
- (3) 北区学校ファミリー構想の理念に基づき、地域の子どもは地域で育てることを念頭に、9年間の義務教育を一貫した取組を引き続き展開する。その中で、小学校・中学校のそれぞれの良さや文化を理解し、異なる校種の教員を尊重し合える雰囲気醸成していきたい。

堀船中サブファミリー（堀船中・滝野川第五小・堀船小）

1. 交流・連携の方向性

【年間 研究主題】

「児童・生徒のよりよい人間関係を基盤とした授業づくり」
～互いを尊重し、安全のための行動ができる児童・生徒の育成を通して～

【研修テーマ策定の背景と検討の視点（令和3年度からの継続）】

- ・授業に「児童・生徒相互のかかわり合いの場」を意図的に設定し、整えていく。



授業に「児童・生徒相互のかかわり合いの場」を意図的に設定し、整えていく。
そのことで、児童・生徒は、互いに思いや考えを受容するようになり、結果、安心感が醸成され、結果、児童・生徒は、思いや考えを自由に表現するようになるであろう。また、日常生活の中で取り組む安全のための行動について意見交換することで、自分事として考えを深めるようになるであろう。

上記のことを通して、対話的な学びが実現し、児童・生徒の「主体的な学び」につながっていくと考える。そして、学習の効果を高める対話的な学びが一層促進されるであろう。

2. 具体的な活動

（1）調整や話し合い

4月11日（金） 15：30～ 運営委員会 堀船中学校にて

- ・今年度の研修実施方策及び計画検討
- ・研究主題は継続するものとし、副主題を安全教育とする授業研究に取り組む

（2）サブファミリー全体での活動

【第1回】令和7年6月18日（水）13：50～16：15 堀船中学校

- ・研究授業

【第1学年】「いじめるつもりはなかったけれど」（生活安全：情報モラル）

【第2学年】「フェイクニュースにはだまされないぞ」（生活安全：情報モラル）

【第3学年】「スマホ・ネット安全教室」（生活安全：情報モラル）

【特別支援学級】「河川氾濫時の自宅からの避難について」（生活安全：水害対応）

- ・全体会

木村明博指導主事を講師として、デジタルシティズンシップ教育についてご指導いただいた後、所属の異なる小・中学校教員で4人組をつくり、「自校の取組の共有、小中連携としてこれから取り組むべきこと」を中心として情報交換しながら、より良い人間関係づくりの方法について、研修を深めた。

【第2回】令和7年9月17日（水）13：45～16：25 滝野川第五小学校

- ・研究授業

【特別活動】 特別支援学級 「ろうかを あんぜん に あるこう」

一木 智恵子 主任教諭・廣岡 花子 主任教諭・山田 絵美 教諭

【生活】 1年1組 「げんきにすごそう」 鈴木 誠也 教諭

〔総合的な学習の時間〕 3年2組 「地域安全マップをつくろう」 及川 竜 教諭
〔家庭〕 6年2組 「すずしい住まい方で快適に」 本木 惇太 教諭

・全体会

低学年A・低学年B・中学年・高学年の4つに分かれてのグループ協議では、授業観察の2つの視点に沿って、「良かった点」、「改善点」について交流し、授業改善に向けた意見を出し合った。その後、木村明博指導主事から授業についての指導・講評をいただき、全体で研修を深めた。

【第3回】令和8年1月28日（水）13：45～16：25 堀船小学校

・研究授業

〔特別活動〕 2年2組 丸山 菜々子 教諭
〔図画工作科〕 4年1組 松本 里緒 主任教諭
〔体育科〕 5年1組 遠藤 千尋 主任教諭

・全体会

各教科の3部会に分かれて、協議会を行った。グループ協議では、授業観察の2つの視点に沿って、「良かった点」、「改善点」について交流し、授業改善に向けた意見を出し合った。その後、講師の「元文部科学省安全教育調査官 長岡 佳孝 様」から授業についての指導・講評を受けるとともに、「学校安全教育」をテーマとしたご講演をいただき、全体で研修を深めた。

3. 成果と工夫した点

（成果）

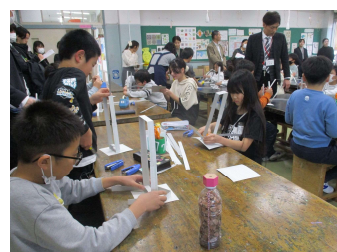
令和3年度からの研究主題を継承することを確認し、今年度は安全教育を副主題として各校で工夫した研修に取り組んだ。それぞれの発達段階を踏まえた安全教育を実施することで、全教員が共通テーマを意識しながら、より良いかかわり合いに向けたコミュニケーションについて工夫し、児童・生徒の相互のかかわり合いを深める授業計画を研究することができた。

（工夫した点）

学習指導案の様式を統一することで、年間をとおして、小・中学校の教員が共通の視点をもって授業観察ができるようにしている。また、安全教育を副主題とすることで、安全への意識を高める指導にも取り組んだ。

4. 課題と改善の方向性

深い学びを追求していくためにも「児童・生徒同士がかかわり合う場」を意図的に設け、コミュニケーションの仕方、例えば受容的に話を聴くなどのスキルについても一層の指導を重ねていく必要がある。今後も、場の設定やコミュニケーションスキルについて、試行錯誤を重ねながら、研修を深めていきたい。



稲付中サブファミリー（稲付中・西が丘小・梅木小

・うめのきななかよしこども園）

1. 交流・連携の方向性

稲付中サブファミリーでは、「国際理解教育の推進」をねらいとし、以下の3点のことに重点を置き、小中一貫教育を進めてきた。

- ① 幼・小・中の学校教育の円滑な接続を実現させ、幼児・児童・生徒の系統的な学習と確かな学力の定着を目指す。
- ② オリンピック・パラリンピックレガシーアワード校での取組を通し、「豊かな国際感覚」の醸成をねらいとして、スポーツを愛し、平和な社会や共生社会の実現を見据えた世界に貢献できる資質・能力の育成を図る。
- ③ 幼・小・中での国際理解教育を通して、広く世界を見つめ、日本人としての自覚と誇りを持ち、国際社会に主体的に貢献し、共生社会を共に生き抜いていく資質・能力を育てる。

今後、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い（稲付中サブファミリー組織構成）

令和7年度

| | |
|--|---|
| 小中一貫教育担当校長 稲付中校長 小代表校長（梅木小） | |
| 運営委員会 全校長・全副校長・幼副園長・各校担当主幹（主任） （必要に応じ、SF運営アドバイザー・指導主事・教育指導員他） | |
| 授業研究部会 各分科会チーフ | ①（国語、社会）②（算数・数学、理科）③（英語、外国語活動）④（図工・美術、技術・家庭、音楽、保健体育）⑤（道徳）⑥（生活・総合） 6分科会 |
| 稲付中学校 梅木小学校 | 西が丘小学校 うめのきななかよしこども園 |

(2) サブファミリー全体での活動（年間計画）

| 実施日 | 会場 | 取組 | 内容 |
|--------------|-------|----------------|------------------------------------|
| 5月8日 (木) | 稲付中学校 | 運営委員会① | 組織編成・年間計画の確認 6月学校ファミリーの日計画 |
| 6月11日 (水) | 梅木小学校 | 授業参観 運営委員会② | 研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備 |
| 8月28日 (木) | オンライン | 授業研究分科会 | 指導案検討 つまずきゼロプランの検討 |

| | | | |
|---------------|--------|----------------|------------------------------------|
| 9月17日 (水) | 稲付中学校 | 連携授業 運営委員会③ | 教科分科会ごとに連携授業、研究協議 会、つまずきゼロプラン検討 |
| 12月16日 (火) | オンライン | 授業研究分科会 | 教科分科会ごとに指導案検討 つまずきゼロプランの活用 |
| 1月28日 (水) | 西が丘小学校 | 連携授業 運営委員会④ | 分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ(成果と課題) |

3. 成果と工夫した点

- (1) ねらいを達成するための取組として、今年度も6分科会を構成し連携をした。6月の授業参観、9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリーの一斉研修日を相談し設定した。8月と12月には、オンラインで指導案検討を実施し、時間を有効活用した連携をすることができた。特に、幼小中に渡る子どもの成長について理解を深めつつ、その実態に合わせた指導方法を検討して授業観察をするなど、子ども理解が進んだ。また、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) 年間3回学校ファミリーの日に幼・小・中学校の授業参観、授業研究を実施できた。3回の授業では指導案検討時から幼小中一貫教育の視点及び、国際理解教育(キーワード例)の視点を盛り込み、研究授業後の分科会では忌憚のない意見を交わせ、授業力向上にもつながった。
- (3) オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校(3校)として、小学校で講演会を9月16日(火)に実施した。ロンドンオリンピック400mメドレーレー銅メダリストの加藤ゆか選手と上田春佳選手を招聘し、今年度も第6学年の水泳記録会に関連して実施した。中学校では第1学年がデフリンピック(走り幅跳等)観戦をし、保健体育科でオリパラ教育について調べ学習につなげることができた。また、3回目の全体会では、西が丘小学校教員による、夏の教員海外派遣の発表がまとめられ、海外英語圏の視点から外国語の授業を見直すことなど、国際理解教育につながる成果となった。

4. 課題と改善の方向性

(1) 授業研究での課題と改善

「国際理解教育の推進」をねらいとして授業研究を進めてきたが、国際理解教育との関連は意識できるが、教科のねらいや学習内容とは必ずしも合致しやすいものではなかったため、何が国際理解の推進と関連付くのか、どう関連付けて授業をデザインしていったらよいか、今後も研究主題と授業研究の関連を深めたり、組織の面では教科分科会を見直したりし、検討を重ねていく。

(2) 研究推進についての課題と改善

3回の学校ファミリーの日では、今年度も3校1園の情報交換や共通理解を図りながら研究を進め、連携を深めていくことができた。これからも情報交換や共通理解を図りながら、充実を図っていく。

また、今年度は、新たな試みとして3校での「あいさつ運動週間」、同日「引き取り訓練」を実施した。実際の災害を想定した訓練には、各校の足並みをそろえる課題も残ったが、改善点を模索しつつ、よいものにしていきたい。

赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

1. 交流・連携の方向性

育てたい子ども像を「学びをつなぎ生きる力を育む子ども」と設定し、以下の内容で小中合同研修や交流活動に取り組んだ。

- ① 児童・生徒の学習状況等の情報交換を、北区基礎基本調査の結果分析や授業研究を通して十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。
- ② 授業研究では、北区小中一貫教育カリキュラムに基づき、各教科分科会の授業計画と実践を通して、9か年を見通した小・中学校の学びの連続と系統性を意識した指導を行う。
- ③ 小中一貫教育の一環として、児童・生徒と保護者・地域が連携した小中合同引き渡し訓練（5月2日（金））を実施する。保護者の引き取りの仕方や兄弟の引き取り手順の確認及び、登下校の危険個所、被災時の待ち合わせ場所等具体的に確認する。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- サブファミリー運営委員会（各校管理職）を年4回行い、活動方針の決定と3回の北区学校ファミリーの日の内容協議や各学校間で必要な調整の確認を行った。
- 9月17日（水）第2回学校ファミリーの日に小中学力向上委員会を開催し、児童の実態や学習のつまずきを確認し、協議することができた（つまずきゼロプラン）。また、2月25日（水）に小6中3担当連絡会と養護教諭連絡会を赤羽岩淵中学校にて開催した。サブファミリー校の児童・生徒の状況について、情報交換を行った。
- 研究分科会
国語部会、社会部会、算数・数学部会、理科部会、外国語活動・英語部会、体育・保健体育・養護部会、音楽・図工・美術・技術・家庭部会、特別支援教育部会、道徳部会の9分科会を設置し、全教員が分科会に所属して企画・運営を行った。特に、ICTの活用について話し合い、学びの連続性を確認した。また、小学生と中学生の交流を推進し、展覧会作品交流展示を実施した。

(2) サブファミリー全体での活動

- 第1回サブファミリー 全体会・各教科部会打ち合わせ
令和7年6月11日（水）午後1時45分赤羽岩淵中学校会場
全体の研究の進め方や各分科会の職員を紹介し、1年間の研究・組織を確認した。
- 授業研究分科会及び研究協議会について
 - ・ 第1回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日①）
令和7年6月11日（水）午後1時45分開始 赤羽岩淵中学校会場
 - ・ 第2回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日②）
令和7年9月17日（水）午後1時45分開始 第四岩淵小学校会場
 - ・ 第3回サブファミリー 授業研究協議会（北区学校ファミリーの日③）
令和8年1月28日（水）午後1時45分開始 なでしこ小学校会場
 - ・ 第4回サブファミリー 小6中3担当連絡会 養護教諭連絡会 拡大運営委員会
令和8年2月25日（水）午後3時00分開始 赤羽岩淵中学校会場

- ・入学予定児童授業見学会

令和7年12月19日（金） 午後1時30分 開始 赤羽岩淵中学校会場

○ 防災・安全教育について

- ・小中合同引き渡し訓練実施 令和7年5月2日（金） 13:30 開始

赤岩中サブファミリーの中学校と各小学校で同時に実施した。

- ・第1回サブファミリー連絡協議会

令和7年7月15日（火）午後3時30分 開始

赤羽岩淵中学校会場 赤羽警察署管内の状況や夏休みの生活や課題について

- ・第2回サブファミリー連絡協議会

令和7年12月10日（水）午後3時30分 開始

赤羽小学校会場 赤羽警察署管内の状況や冬休みの生活や課題について

3. 成果と工夫した点

- ① 9分科会を設定し、サブファミリー小中学校が連携した授業研究を推進している。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の連続性を意識するとともに、つまづいている項目を抽出し、小学校教員と中学校教員が協議し、内容を深化させることができた。
- ② 小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導の流れの中で、きたコンをはじめ、ICT機器の活用が、今後さらに重要であることを、各分科会で活用状況等の意見交換を行った。児童・生徒の活動の視点でとらえると、文字入力をはじめ、意見交換、自身の考えやグループでの意見発表時の活用、更にソフトウェア機能を使った作品やプログラミングなど幅広い活用方法が報告され、小中一貫教育の流れを感じ取ることができた。また、ICT活用を苦手とする教員も、できることからではなく、同じ手順や手法で模倣し、実際に実行することにより苦手意識を低くすることができ、活用の気運を上げることができた。
- ③ 災害時を想定し、児童・生徒を保護者へ引き渡し訓練を小中学校が連携して同時間帯に実施した。保護者が小学生を迎えに行ったあとに、中学校へ来るという訓練が定着し、混乱なく実施できた。サブファミリー校が同一日に一斉に引き渡し訓練を実施することで、保護者や地域の防災に対する意識が高まっている。
- ④ サブファミリー校の展覧会作品交流展示、あいさつ運動の生徒会と児童との交流推進を図ることができた。小中学校のPTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察署が参加してのサブファミリー5校で生活連絡協議会を夏期及び、冬期休業日前の年2回実施することにより、関係諸機関・地域・PTAが協力したファミリー間の連携行事となり信頼関係がさらに深まっている。

4. 課題と改善の方向性

- ① 前年度の2月中に、運営委員会を開催することができたため、令和7年度の学校ファミリーの運営を順調に進行することができた。
- ② きたコン活用について、更に話し合いを推進し、日頃から効果的な活用方法や使い方のルールなどを模索し、連携していくことの重要性を確認した。

桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小 ・八幡小・赤羽台西小）

1. 交流・連携の方向性

桐ヶ丘中サブファミリーでは、北区小中一貫モデル事業の実施方策を踏まえ、これまでのサブファミリーの活動や小中一貫教育の取組をもとに、前年度の内容を踏襲しつつ、本年度の方向性について再検討し、今年度の取組等を決定した。

令和7年度の「育てたい子ども像」についても、令和5年度から続いている「何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども」とした。桐ヶ丘中サブファミリーでは、子どもを取り巻く社会環境やそれに付随する課題が更に多様化、複雑化する過程で、社会の持続可能な発展を牽引する力をさらに伸ばしていきたいという観点から、ESDの視点を取り入れた「育てたい子ども像」としている。この「育てたい子ども像」を基に小中の連携を図りながら、生活指導や行事等の教育活動を円滑に進めてきた。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

○4月に行われた桐ヶ丘中サブファミリー運営委員会で、令和7年度の取組の方向性として「育てたい子ども像」を「何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども」に決定した。研究授業は、中学校は毎年、小学校4校は2校ずつ隔年で研究授業を実施することを確認した。桐ヶ丘中サブファミリー5校内の連絡・調整や情報共有については、校務支援システム掲示板での情報共有や特定公開フォルダ内の桐ヶ丘サブファミリー専用フォルダにおいて円滑な調整・運営を行った。

○第1回は桐ヶ丘中学校、第2回は桐ヶ丘郷小学校、第3回は袋小学校で研究授業、協議会、全体会を実施した。

○分科会は、一昨年度から引き続き5分科会とした。

- ・「学力向上（国・社・数・理）」
- ・「外国語・英語」
- ・「体力向上・健康増進（保健体育）」
- ・「健全育成（道徳）」
- ・「特別支援」

各分科会に各小中学校の教員が分散するようにメンバー表を作成した。分科会のメンバーの入れ替え等を行わず、同じメンバーで研究授業と協議会を行った。また、各分科会の講師はサブファミリー内の校長が行った。今年度の指導案検討会は、事前の指導案検討会のもち方や授業内容の充実という点を考慮し、8月はオンラインであったが、1月は対面形式で実施した。

(2) サブファミリー全体での活動

① 特色ある取組

「明るくあいさつをしよう」、「はきものをそろえよう」、「じかんをまもろう」の3つ

を「桐ヶ丘子ども憲章」として掲げ、5校で取り組んでいる。

②授業改善

5分科会（学力向上、英語、健全育成、体力向上、特別支援）ごとに事前検討会で確認した目的と検討事項を中心に、テーマに沿って意見交換と情報共有を行った。学力向上分科会は社会・国語で、英語・外国語分科会は英語で、体力向上分科会は体育で、健全育成分科会は道徳で、特別支援分科会は技術・算数・総合的な学習の時間でそれぞれ授業を行った。協議会では、授業以外に日常の取組についても情報交換することができた。各協議会の記録は桐ヶ丘サブファミリー専用フォルダに保存し、全体で共有することで活用しやすいようにしている。

③地域との連携

不登校児に関する情報交換は、地域の方々やSSW、子ども食堂の関係者などの情報を継続的に行い、児童・生徒理解を図っている。



3. 成果と工夫した点

① 成果

小・中学校の教員がそれぞれの専門性だけでなく、それ以外の分野にも学びを広げる有益な場となった。また、児童・生徒を育成するためには、今の学習が今後どのような力を育てることにつながっていくのか、そのためには、今どのような工夫が必要か意識する機会となった。

② 工夫した点

年度の途中であったが、事前指導案検討会をオンラインだけでなく、対面方式を取り入れた。この取組により、実際に使用する具体物を手に取りながら、授業者の意図や授業の工夫を確認することに有効であった。

4. 課題と改善の方向性

「何事にも意欲的に取り組み、社会の変化に主体的に対応しようとする子ども」の育成を目指す授業実践を重ねてきたが、ESDとの関連付けが難しいものもある。テーマに対する理解を深めながら、更に研修や教員の資質向上を図る必要がある。



浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

1. 交流・連携の方向性

テーマ 「主体的に学ぶ子どもの育成 ～学力の定着・向上を図る授業改善～」

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を各小学校・中学校で実践することで、学力の定着・向上を図る。また、小学校6年、中学校3年の9年間で一貫した学習規律や生活習慣等の確立を進める。

- (1) 授業研究（8分科会 小学校各学年＋特別支援学級＋養護）
- (2) 合同行事（引渡訓練、特別支援学級交流会、卒業生のお話を聞く会）
- (3) 児童・生徒理解（中1ギャップ連絡会、小中一貫学力向上部会）

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ・管理職、教務主任、が研修内容や日程を調整し、情報共有することができた。
- ・サブファミリーの日に実施する授業研究では、サブファミリーのフォルダを活用し3校の教員による指導案検討会をサブファミリーのフォルダを活用して実施した。
- ・引渡訓練は、5月31日（土）に3校合同で実施した。3校の時程を教務主任が調整し、小学校と中学校に児童・生徒を通わせている保護者に配慮した。地域清掃は、3校の実情で校内清掃を行った学校もあった。
- ・中1ギャップ連絡会と小中一貫学力向上部会は、ファミリーの日に実施した。

(2) サブファミリー全体での活動

- ・学校ファミリーの日・・・6月11日（水）浮間小学校
9月17日（水）浮間中学校
1月28日（水）西浮間小学校

ファミリーフォルダやC4t hを活用して指導案検討会を行った。

- ・中1ギャップ連絡会・・・ファミリーの日（研修会后）
- ・小中一貫学力向上部会・・・夏季休業中に作業を行った。

少人数で小学校と中学校の教員が集まることができ、有意義な連絡会となった。小学校でトラブルのあった児童が中学校でどのような生活を送っているかを報告し、小中一貫教育の大切さを確認することができた。

- ・小学生見学会・・・・・・・11月21日（金）

浮間小学校と西浮間小学校の6年生が浮間中学校に集まり実施した。新校舎の見学は、中学生になる心構えを自覚させる良い機会となっている。学級ごとに見学を行い、中学生が授業を受けている様子を知ることができた。また、生徒会役員が浮間中学校の説明を行い、小学生は熱心に聞いていた。

(3) 特別支援学級交流

今年度も教育総合相談センター主催による新入生・転入生を迎える会が4月25日（金）に2会場での分散開催となった。他の学校との交流も深まり、有意義な行事となった。

また、令和3年度から実施している浮間小学校・浮間中学校2校による特別支援学級の交流行事も恒例となり、児童・生徒が楽しみにしている行事となっている。浮間小学校の先生方にとっては、卒業生の成長の様子がわかり、小中一貫教育に大変役立っている。

(4) 卒業生の話を聞く会

浮間小学校と西浮間小学校を卒業した浮間中学校の3年生が、母校の6年生に中学校生活を具体的に説明する会を3月2日(月)に行った。今回で4回目となる。

小学6年生の不安な気持ちを解消するため、中学3年生がきたコンを活用してスライドを作成し説明を行った。6年生にとっては、中1ギャップの解消につながり、小学校の先生方には卒業生の成長が見られ、楽しみにしている行事として定着している。

3. 成果と工夫した点

今年度のサブファミリーの活動は、2回は授業公開後に分科会を設定し、1回は東京都小学校国語教育研究会顧問の遠藤真司先生の講演をいただいた。少人数の分科会では、児童・生徒の様子や指導方法、きたコンの活用等、小中一貫教育の視点に立った活発な意見交換を行うことができた。また、講演では「言語能力の育成で子どもを変える」をテーマに話す力・聞く力の大切さについて実践形式を交えて子どもたちの学びの力を高めさせる方法を学ぶことができた。

4. 課題と改善の方向性

- ・来年度は、授業面の一貫教育(浮間スタイル)と生活面の一貫教育(浮間スタンダード)を考えていきたい。小学校6年間で培ってきた授業規律や生活のルールなどを中学校側が引き継ぎ、義務教育後半の3年間で、保護者や地域・学校が目指す児童・生徒の育成を行っていく。
- ・中1ギャップ連絡会を充実させ、入学前の聞き取りのみに頼らず、学級編成の構想や受け入れ準備を入念にする。また、児童・生徒の情報交換をさらに充実させる。
- ・年3回の対面の交流だけでなく、日頃の情報交換や共有事項をICTの活用を通して実施する。3校の教育活動がお互いにわかるように、サブファミリーのフォルダを活用し、学習面や生活指導面、年間行事予定表、月行事予定表など、様々な案件の情報共有をする。
- ・3校の取り組みの一つとして朝読書の活動をサブファミリー全体で行う。
- ・令和6年度に開校した都の北学園の取組を参考にし、小中一貫教育に根ざした教育活動を今後とも継続していく。
- ・地域行事として「このはまつり」がある。乳幼児や小学生が楽しみにしている行事で、中学生は、運営のお手伝いをしている。また、「浮間ミュージックフェスタ」という地域行事の2回目を行うことができた。来年度は、小学校にも参加を呼びかけていく。

田端中サブファミリー（田端中・滝野川第四小・田端小）

1. 交流・連携の方向性

- (1) 中学校区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し、児童・生徒の健全育成を図る。
- (2) 中1ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、小・中9年間の教育の接続・一貫を目指す。
- (3) 学校文化の異なる多様な人間関係を学び、対人関係調整力の向上や、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。
- (4) 年3回の「学校ファミリーの日」には、3校の全教員が授業を参観し合い、小・中9年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子ども像や各校の教育実践について意見交換や指導方法の改善を図るよう推進する。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

①第1回連絡会（田端小学校） 令和7年5月9日（金）15：45～

・令和7年度の日程、担当校の確認

②第2回連絡会（田端小学校） 令和8年1月28日（水）16：15～

・令和8年度の日程調整、令和8年度の担当校の確認

| | 分科会名 |
|---|---------------------------|
| 1 | 算数・数学、理科 |
| 2 | 外国語活動、英語 |
| 3 | 実技・芸術 (図工・美術、音楽、技術、家庭) |
| 4 | 体育・保健体育、養護 |
| 5 | 社会 |
| 6 | 読書活動推進（国語） |
| 7 | 特別活動推進（道徳） |

【分科会の進め方】

- ①メンバーは各学校で編制し、年間、同分科会に所属することを原則とする。
- ②分科会の司会・記録は、担当校が行う。教員が不足する場合は、他校に手伝いを依頼する。
- ③授業公開では、所属する分科会の授業を参観する。分担は各校で調整する。
- ④分科会では、視点を明確にした話し合いを行い、各校における授業改善に役立てる。
- ⑤6、7の分科会は、各教科の視点も取り入れた推進をする。

- ・研究テーマ「小中一貫教育を視野に入れた、確かな学力を身に付ける授業の工夫」
児童・生徒の確かな学力を身に付けさせるための授業の工夫を研究テーマを設定し、各分科会ごとに小中連携による研究を進めた。
- ・読書活動では「たばたの100冊」に、文学的作品を取り入れるなどして書籍を増補しながら選書をすすめ、図書室の環境整備、小中の交流推進を図る。

(2) サブファミリー全体での活動

- ①第1回「学校ファミリーの日」(会場:滝野川第四小学校) 令和7年6月11日(水)
内容:授業公開(外国語、音楽、体育、社会、国語、道徳、数学)分科会、全体会
- ②第2回「学校ファミリーの日」(会場:田端中学校) 令和7年9月17日(水)
内容:授業公開(数学、外国語、理科、体育、社会、国語、音楽、道徳)分科会、全体会
- ③第3回「学校ファミリーの日」(会場:滝野川第四小学校) 令和8年1月28日(水)
内容:授業公開(理科、外国語、家庭科、体育、社会、国語、道徳)分科会、全体会
- ④その他
 - ・小6体験入学 令和7年9月12日(金)
(内容)校内巡り、生徒会による学校紹介、ミニ授業
 - ・小中連携あいさつプロジェクト 令和8年2月12日(木)、13日(金)
小学生登校時刻にあわせて、サブファミリー小学校校門にて田端中学校生徒会、ボランティア生徒があいさつ運動を実施。

3. 成果と工夫した点

- (1) 分科会1は、令和8年度の教員を基に考え、「算数・数学」分科会と「理科」分科会に分けて8分科会で行えるかどうかを4月に判断する。
- (2) 読書活動推進事業として令和4年度にスタートした「たばたの100冊」については、文学的作品を取り入れるなどして書籍を増補しながら選書を進め、図書室の環境整備、小中の交流推進を図る。
- (3) 比べて読もう新聞コンクールの応募状況の確認、3校とも夏休みの課題として取り組んだ。NIE教育活動推進事業は発展的終了となるので、今後、新聞等を活用した授業は各学校での取り組みとなる。
- (4) 特別活動推進事業として、中学校の生徒会が中心となり、「あいさつプロジェクト」を継続実施した。中学生がよい模範となり、交流を深める機会とすることができた。

4. 課題と改善の方向性

- (1) 読書活動推進事業では「たばたの100冊」に文学的作品を取り入れるなどして書籍を増補しながら選書を進め、図書室の環境整備、小中の交流推進を図る。
- (2) NIEは社会科の分科会から外す。
- (3) 特別活動推進事業では児童会・生徒会活動の活性化をすすめる。「あいさつプロジェクト」の日数を増やす検討や「ひまわりプロジェクト」等を通じた交流を図る。
- (4) 外国語活動で声を出すことに抵抗がある児童が1名いた。トリオ編成を考慮して、教え合い、聞き合いが見られて、少人数のグループが効果的であったので、今後も継続していく。

滝野川紅葉中サブファミリー

(滝野川紅葉中・滝野川第二小

・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小)

1. 交流・連携の方向性

- (1) 5校で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。
- (2) 「主体的に学び、すすんで表現する児童・生徒の育成」を共通の授業研究テーマとし、教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深め、授業改善の視点を共有化して授業実践に取り組む。
また、育てたい子ども像を

- ・地域の一員として、すすんで貢献しようとする子ども
- ・自己肯定感をもち、自他のよさを認め合える子ども
- ・基本的な生活習慣を身に付け、学習意欲のある子ども

と設定した。

- (3) 「子どもたちがどのように学ぶか」という視点に立って、授業設計を深めることにより、一人一人のつまずきに対応したきめ細やかな指導の充実を目指す。
- (4) 伝統野菜の「滝野川ごぼう」の栽培や、滝野川地区の特色ある教育資源を活用するとともに、地域内の東京国際フランス学園との交流を通して国際理解教育を充実させ、地域に誇りをもつ活動や地域とのかかわる活動を行う。

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ・年度当初：5校の校長・・・・・・・・本年度の活動計画、年間指導計画の確認
- ・第1回運営委員会・・・・・・・・活動方針・実施計画、部会の組織、運営方法、構成員の確認等
- ・随時：教務主任・生活指導主任・・方針の共通理解、日程調整等

(2) ファミリー全体での活動

①授業研究・授業交流

授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、保健体育・養護、道徳、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の8分科会で、滝紅中スタンダードの実践を視点とした指導方法の工夫改善について研究を深めた。

- ・第1回学校ファミリーの日（6月18日）は滝野川紅葉中学校にて授業研究
 - ・第2回学校ファミリーの日（9月17日）は谷端小学校にて授業研究
 - ・第3回学校ファミリーの日（1月28日）は滝野川もみじ小学校にて授業研究
- 授業研究日は、授業を実際に参観し、その後、小・中の教員で分科会ごとに協議を行い、SF各校の校長・副校長を講師に配し、指導・講評があった。

第2回・第3回は、事前の指導案検討を長期休業中に実施した。

②体験授業

- ・1月13日・・・・・・・・サブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験授業を実施。生徒会役員による中学校生活の紹介、中学

校教員による授業体験を行った。

③国際理解教育（東京国際フランス学園ーリセとの交流）

- ・滝野川紅葉中学校・・双方に行き来し、フランス語の学習体験・日本文化体験などを行った。
- ・滝野川第二小学校は、5年生がリセの児童と交流を行った。また、滝二小でドッジボール体験を行ったり、フェンシング体験をリセで行ったりした。
- ・滝野川もみじ小学校では、11月22日（土）に行った音楽会にリセの児童が来校し、合唱や演奏を鑑賞した。
- ・谷端小学校は、5年児童がリセの児童と交流を行い、合同授業としてウクレレ演奏、フランス絵画の体験をリセで行った。

④「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・サブファミリー全校で滝野川ごぼうの栽培
- ・緑のボランティア等地域の方々と連携し、児童生徒の活動を支援できる体制を作った。滝野川第二小学校、谷端小学校では、栽培活動を継続し、地域学習に生かすことができた。滝野川紅葉中学校は、給食委員の生徒が主体的にごぼう栽培に携わり、収穫の喜びと、給食の食材として全校に振舞われたことで、達成感も味わうことができた。



⑤六校連キンボール体験会

- ・12月14日（日）・・サブファミリーの小中学校5校の児童によるキンボールの体験会を実施した。初めて競技に触れる参加者もいる中、体験会は盛り上がりを見せた。

3. 成果と工夫した点

- (1) 授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導の在り方やそれぞれの発達段階で身に付けるべき学習規律について探究した。授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。
- (2) 4月に実施した北区基礎・基本調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。
- (3) 研究授業及び研究協議会は、開催方法を探りながらの開催であったが、分科会ごとに、小中9年間を見通した各教科における効果的な指導の在り方を探究することができた。

4. 課題と改善の方向性

- (1) 8分科会で授業研究を行った。来年度も、授業交流を通して、各教科の特性に合わせた研究を更に深めていく。
- (2) サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。
- (3) 新学習指導要領全面実施に合わせて「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導方法や評価方法を工夫改善して実施していくことが、今後の課題である。

飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

1. 交流・連携の方向性

今年度のテーマである「連続性のある主体的・対話的で深い学びのカリキュラムづくり」をもとに、年間の活動を進めてきた。今年度は各教科部会でサブテーマを設定し、「授業研究」と「児童・生徒交流」の2つを柱として、小中一貫教育の推進を充実させるよう、連携を深めた。

～育てたい子ども像～

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子ども
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子ども
- 3 明るく元気に進んで運動する子ども
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子ども

2. 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- ①令和7年4月28日（月）第1回運営委員会 於：飛鳥中学校
- ②令和7年5月 7日（水）ファミリー分科会（オンライン）
- ③令和7年6月11日（水）全体会后、運営委員会 於：西ヶ原小学校
- ④令和7年9月17日（水）全体会后、運営委員会 於：飛鳥中学校
- ⑤令和8年1月28日（水）全体会后、運営委員会 於：滝野川小学校

(2) サブファミリー全体での活動

- ① 6月11日（水）公開授業・分科会・全体会 於：西ヶ原小学校
- ② 7月 5日（土）小中連携合同引き渡し訓練
- ③ 8月 小中連携「つまずきゼロプラン」会議：書面にて実施
- ③ 9月17日（水）公開授業・全体会・分科会 於：飛鳥中学校
- ④12月 8日（月）新入生体験入学 於：飛鳥中学校
- ⑤ 1月28日（水）公開授業・分科会・全体会 於：滝野川小学校

(3) 各教科部会で設定したサブテーマ

| 教科 | 分科会サブテーマ |
|---------------------|--|
| 国語 | 自分の考えに自信をもって表現できる子ども |
| 社会 | 自分から探究し、考えたことを表現する |
| 算数・数学 | 「学び合い」を通して「分かった」「気付いた」を経験させ、「多様な考え方」「友達の考え」への価値を見いだす |
| 理科 | 児童生徒が主体的に取り組み、日常生活の疑問を解決できる授業づくりを行う |
| 英語・外国語活動 | 普段通りの授業を見せ合う！ |
| 実技教科 (音・図・美・技・家) | 子ども達が粘り強く自分の表現を深め、個々の変容を実感できる授業 |
| 保健体育 | 「走跳」の視点から |
| 特別支援教育 | 集団における児童・生徒の学び合い |

～公開授業の様子～



(3) 各分科会の取り組み

【授業研究】

第1回は西ヶ原小において全学級の公開授業を実施し、その後の分科会で設定したサブテーマに沿って協議した。

第2回は飛鳥中において、研究授業後の全体会で第1回と同様に協議した後、教科によっては「つまずきゼロプラン」について各校の課題と取組について協議した。

第3回は滝野川小において、教科ごとの参観がしやすいよう学級を限定した公開授業を行い、今年度の成果と課題について協議した。

【児童・生徒交流】

- ①保健：新入生体験入学にて、飛鳥中の保健委員会が「たばこの害」についての発表を行った。
- ②作品交流：美術（図画工作）、家庭科、国語科（書写）の作品交流を行った。
- ③図書交流：図書館支援員を中心に、POP交流などを行った。

3. 成果と工夫した点

- (1) 今年度は各教科でサブテーマを設定したことにより、授業づくりやその後の協議において視点が明確になった。
- (2) 分科会においては、9年間を見据えたカリキュラム設定、発達段階に応じた指導方法の工夫など、各校の実態を踏まえた具体的且つ即実践につながる話し合いが行えた。
- (3) 「新入生体験入学」では、6年生が飛鳥中に来校し、授業を見学したり、生徒会からの発表を見たりして、卒業後の進路についての自覚をもつことができた。

4. 課題と改善の方向性

小中一貫教育の推進にあたっては、「カリキュラムをつなぐ」「指導方法をつなぐ」「指導者、児童・生徒をつなぐ」といった視点があげられるが、今年度は各分科会で大テーマに迫るためのサブテーマを設定したことにより、視点に沿った具体的な実践と協議内容の充実につなげることができた。各テーマの質や教科間の関連、授業公開に向けた指導案検討の時間設定等については、サブファミリー事業に関する共通確認事項を各校で徹底するとともに教務主任間の連携や事前に分科会での協議の視点を示すことで改善していく。

都の北学園（義務教育学校）

1. 交流・連携の方向性

- (1) 「小中一貫教育」のフラッグシップ校として、義務教育9年間の切れ目のない一貫した指導体制と校種の特性を生かした小中一貫教育を実践する。
- (2) 4部会（経営支援・教務・生活・特活）、校内研究は教科を中心とした各分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、教育カリキュラムの検討や授業研究を行う。
- (3) 義務教育9年間を見通したサブファミリー防災・減災教育や農業体験を実施し、地域防災の担い手や環境、食を意識した児童・生徒の育成をする。
- (4) 前期課程・後期課程（小・中学校）教員間の交流を活発にするとともに、互いに尊敬の念を抱くことで、教員相互の信頼関係を深める。

2. 具体的な活動

- (1) 打合せ（日付は職員会議の日）

- ① 4月 3日（水）13時00分～
「4部会【経営支援部・教務部・生活部・特活部】」「企画会」「職員会議」
- ② 4月30日（水）14時45分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ③ 5月28日（水）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ④ 6月26日（木）14時45分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑤ 7月18日（金）14時00分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑥ 8月29日（金）15時00分～「4部会」「企画会」「職員会議」
- ⑦ 9月25日（木）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑧ 10月29日（水）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑨ 11月26日（水）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑩ 12月24日（水）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」
- ⑪ 1月28日（水）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑫ 2月17日（火）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」「研究分科会」
- ⑬ 3月17日（火）14時30分～「4部会」「企画会」「職員会議」

- (2) 都の北学園前期課程・後期課程全体での活動

- ① 4月 7日（月）始業式・入学式
- ② 4月19日（土）「引き渡し訓練」各教室
- ③ 5月 7日（水）研究全体会・講演（年間講師：田中 洋一先生）
- ④ 5月15日（木）5・8年生「農業体験：田植え」（ファームインさぎ山）
- ⑤ 5月24日（土）9時～11時30分「後期課程運動会」（北区立北運動場）
6年生が交流綱引き参加
- ⑥ 6月10日（火）研究授業（国語）3年生
- ⑦ 6月13日（金）4・7年「防災・減災教育」4・7年生混合の班編成
- ⑧ 6月27日（金）「都の北まつり（前期課程）」に後期課程の生徒も出店
- ⑨ 9月17日（水）研究授業（外国語）6年生

- ⑩ 9月27日(土)「神谷地区少年の主張発表会」(本校アリーナA)
6～9年生と合唱団(4～6年生)
- ⑪ 9月30日(火)5・8年生「農業体験：稲刈り」(ファームインさぎ山)
- ⑫ 10月25日(土)「後期課程学習発表会」前期課程児童がリハーサルを見学
- ⑬ 11月15日(土)9時～14時30分「前期課程運動会」(北区立北運動場)
9年生が応援・競技(交流綱引き)参加
- ⑭ 11月21日(金)後期課程生徒によるなかよし班読み聞かせ
- ⑮ 「都の北標語展」…「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から
標語を募集。12月に最優秀作品11点を選び、ポスターを作成し、校内及び町会・自治会の掲示板にて展示
- ⑯ 1月26日(月)研究授業(数学)8年生
- ⑰ 2月27日(金)・28日(土)「前期課程展覧会」後期生徒が鑑賞
- ⑱ 3月11日(水)研究全体会(研究授業を行わなかった分科会の報告)・講演
- ⑲ 毎月の合同避難訓練

3. 成果と工夫した点

- (1) 年間を通して、課程間(前期・後期)連携を取り入れた合同研究授業や学校行事を実施したことにより、強みや連携の意義について教員間、児童・生徒間の理解を深めることができた。日常的な前期・後期課程相互授業観察の実施により、発達段階における学習内容・学習指導方法の工夫についての理解等を深めた。
- (2) 農業体験、防災・減災教育において、前期課程・後期課程の連携をさらに強めるために今年度も前期課程・後期課程が混在するグループを組ませ、協働させる取り組みを行った。そのことにより、8年生と5年生(防災・減災教育においては7年生と4年生)の仲が今までになく深まり、都の北学園での前期課程と後期課程の連携の一つのあり方を見いだすことができた。

4. 課題と改善の方向性

- (1) 都の北学園において様々な行事や活動での異学年交流を進めていくためには、活動担当教職員同士の緊密な連携や、他の教職員との共通理解がさらに必要となる。そのため、「言わなくても理解できるだろう」という考えを捨て、「児童・生徒、教職員の誰もが理解しやすいものになっているか」という考えで、活動を計画していく必要がある。
- (2) 前期課程・後期課程が単独で行う活動についても、もう一方の課程が「何ができるか、どのような影響を与えるか」を考慮し、連携して立案し、より充実した活動を模索する必要がある。
- (3) 教育課程のスムーズな進行のために、校庭が未整備で使用できないこと、体育館が学級数に対して狭いこと、前期課程と後期課程の生活時程が異なることもあり、前期課程・後期課程の児童・生徒が日常の活動を行うための場を確保することに工夫が必要である。

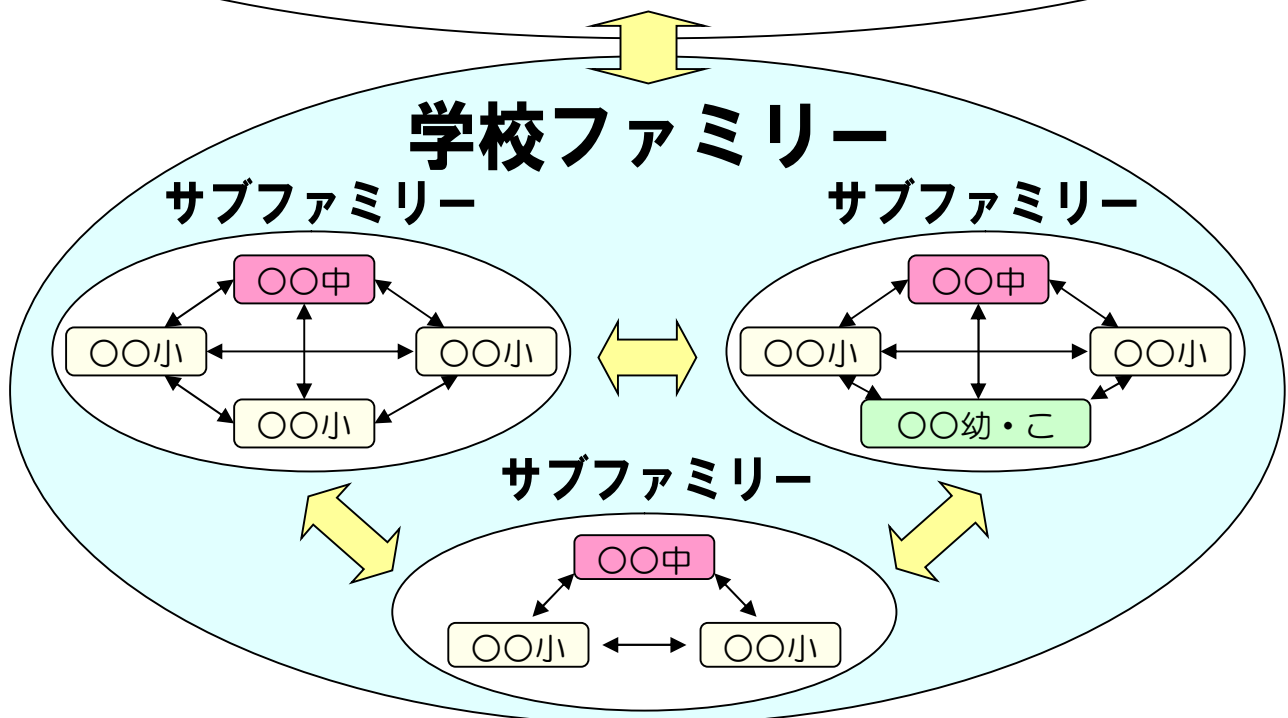
北区学校ファミリー構想概要

1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）

《学校関係者・地域の関係諸機関との連携・協力》

- 町会・自治会、青少年地区委員会、児童委員、地域振興室 など
- 高校、大学・大学院、図書館 など
- 児童館、保育園、福祉保健センター、教育相談所、児童相談所 など
- 警察署、消防署、高齢者施設 など
- 教育ボランティア、ボランティア団体、民間活動団体 など



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

2 北区学校ファミリーのねらい

①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしします。

③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校とこども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

3 学校間連携による5つの効果

①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ① 情報交換
- ② 授業交流（こども園、小学校、中学校）
- ③ 教員研修の合同実施
- ④ 共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤ 学校運営面での連携・協力
- ⑥ 学校行事での交流
- ⑦ 関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧ その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

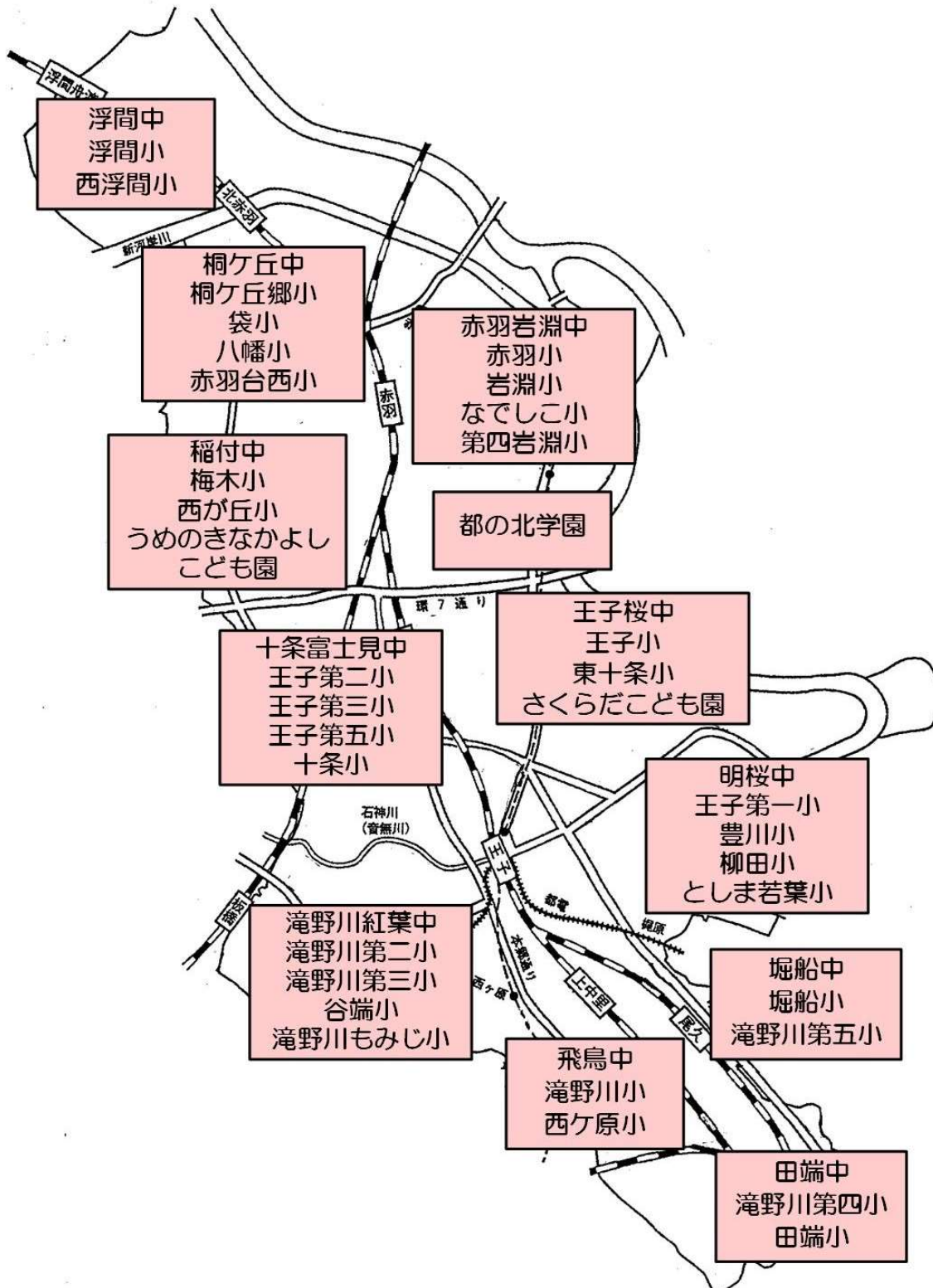
「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・こども園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(令和7年度サブファミリーマップ)



6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

令和7年度北区学校ファミリー事業報告書

令和8年3月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

7-3-097